

公告 昭 32.5.24 出願 昭 27.12.2 実願 昭 27—32149
(抗審 昭 29—938)

出願人 考案者 鈴木 喜一 東京都墨田区厩橋3の11
代理人 弁理士 井 上 重 三

(全2頁)

ス ペ イ キ

図 面 の 略 解

第1図は本実用新案の正面図、第2図は第1図A—A線の断面図、第3図は木材に打込んだ状態の本実用新案の横断面図である。

実 用 新 案 の 説 明

本実用新案は下端に錐形尖鋭部1を形成した直杆2に中間に円錐形細胴3を存して数個の上面水平部4'を有する正面盃形隆起部4を一体に突成し該盃形隆起部の傾斜角度 α を下端部のそれより上端に至るに従つて漸次鋭角ならしめ且これらの傾斜角度を少くとも 40° 以上ならしめ、直杆2の上端に段頭部5を一体に設けたものである。尚盃形隆起部4を直杆2の全長に亘り、或は中間部のみ又は下端部附近のみに設けることができる。

従来スパイキとして三角形、四角形等の直杆の一部に逆爪を形成して之を木材に等打込みたる時逆爪が木質に喰込みその脱出を防止したものがある。しかし乍ら鉄道線路の如く始終烈しい震動を受けるとき逆爪の存在に拘らず脱出する危険が多い。

本実用新案はこれらの欠点を除去するため考案されたものであつて傾斜角度 α は下方のものほど大きくて、上面水平部4'の直径は下方のものほど小さくなつてゐるために、段頭部4を叩打して木

材に打込むときはそれぞれの盃形隆起部4がすべてスパイキの抜け出しを防禦するものに役立ち、それぞれがその一部分宛を受け持ち全体としての機能を充分に達することができると共に木質は盃形隆起部の傾斜角度 α の存在にて円滑に排除されつゝ直杆2を木質内に進入せしめる。直杆を所要深さまで打込めば木質は漸次直杆の外周に密着し、第3図に示すように細胴3部に特に緊密に密着し盃形隆起部の上面水平部4'の存在にて直杆の脱出することを強力に防止する。故に本実用新案は震動烈しき線路のスパイキとして最適であり、盃形隆起部4の存在により打込中直杆2が屈曲する如きことなく大量生産を行い得て比較的低廉に提供できる効果がある。

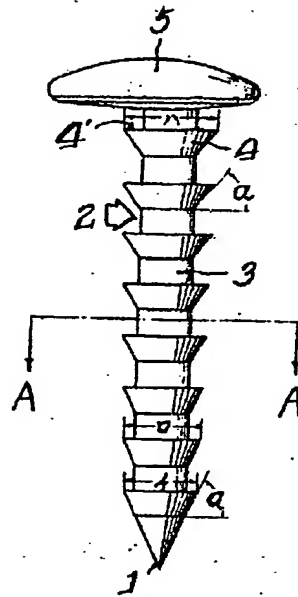
登 録 請 求 の 範 囲

図面に示すように下端に錐形尖鋭部1を形成した直杆2に中間に円錐形細胴3を存して数個の上面水平部4'を有する正面盃形隆起部4を一体に突成し該盃形隆起部の傾斜角度 α を少くとも 40° 以上ならしめ、直杆2の上端に段頭部5を一体に設け、傾斜角度 α は下方のものほど大きくて、上面水平部4'の直径は下方のものほど小さくなつたスパイキの構造。

(2)

實用新案出願公告
昭32—4101

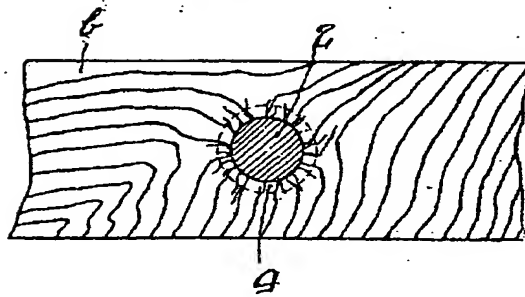
第1圖



第2圖



第3圖



BEST AVAILABLE COPY